

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念を唱和している。また、理念に基づき、事業計画を作成しており、ホームの目標を明確にしている。目標に沿った運営が行えるよう、朝礼や申し送り等で話し合っている。	法人の理念とホームの理念がホーム内に並べて掲示されている。唱和をしたり話し合いを行い、理念の共有・実践につなげている。毎年、職員は理念に基いた個人目標を作成し、日々、理念を意識しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を行事に招いたりすることで、地域との連携を図るようにしている。また、ご近所の方が、お掃除のお手伝いをして下さったり、御礼にお食事を召し上がってもらったりという交流もある。	毎日の買い物や散歩、時には近くの保育園へ車で出かけるなど地域の人々と普通に交流している。ホームの行事にボランティアが参加したり、高校生の職場体験や近所の方々の訪問など入居者とのふれあいの機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族やボランティア参加の季節行事を取り入れ、ホームの様子を良く知って頂ける機会にしている。また、新聞の発行、ホームページの更新等でも、当ホームの運営理念を知って頂ける機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。施設での取り組み等の報告を行い、意見や指導を頂いている。	入居者、家族等が参加した会議が開催されている。ホームの取り組みや現状などが報告されている。参加者等とは膝を交えた話し合いが行われており有意義な会議となっている。	家族以外のメンバーの方が更に参加しやすいような工夫をし、更に双方向的な会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に保険福祉課へ訪問し、こまめに連絡を取り合っている。	町役場を訪ねては担当者に併設デイサービスと合同で作成した「サンフラワー新聞」を届けたり、ホームの様子や入居者の暮らしぶりを報告したり相談するなど積極的に連携を図っている。担当者が変わっても協働関係は変わらず引き継がれている。辰野町訪問看護ステーションとは入居者の健康や医療面についての相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針でもあるが、身体拘束は現在行っておらず、職員にも周知している。	職員は身体的拘束の内容(「身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為」)や弊害を理解しており、「拘束を行わない」ことを職員間で共有し、各入居者のその人らしい自由な暮らしを実現させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在、自宅やホーム内での虐待がある事実はない状況である。		

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在、制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の面接時には、利用者様、ご家族に契約書、重要事項説明書を用いて、丁寧に説明しており、同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に明記している。毎年、満足度の調査アンケートを実施している。また、利用者様の「つぶやき」を記録しており、その「つぶやき」の内容をサービスの改善につなげている。	家族交流会や運営推進会議また面会時等、家族と話す機会を積極的に設けている。家族等が気兼ねなく何でも話せる雰囲気作りに努めている。入居者の何気ない言葉やふとした時に洩らした一言から入居者の思いや願いを受け止め支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月のホーム会議にて、各スタッフと活発な意見交換を行っている。	職員は個別に目標を立て、日々達成に向けて励んでいる。一年間の活躍や目標等からアイデア賞や努力賞、チームワーク賞など様々な賞が贈られており、職員の向上心やサービスの質の向上、運営に良い結果をもたらせている。管理者は職員と半年毎に個人面接をしたり、必要があれば日々話しかけ、個別に話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート、実績評価表を基に個別面接を行うようにしている。優秀職員個人賞、チーム賞、理事長賞等の表彰制度を取り入れており、各職員の意欲に結びつけられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートに基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、法人内の交換研修を行い、他の事業所や他部門の研修を行っている。法人外の研修にも参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	辰野町運営協議会や、介護予防事業を受けている事業所との定期的な会議を設けて、相互の活動の様子を情報共有することをしており、それをサービスの質につなげるようにしている。		

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接において、家族だけではなく本人にも必ず同席して頂き、利用者様の不安や要望もお聞きするようにしている。面接内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接において、不安や要望等をお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに見学に来て頂き、概要を説明した上で、入居申し込み用紙を記入して頂いている。相談内容からグループホーム以外の利用が適切と判断した場合は、他施設の利用も紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子観察を十分に行い、その立場に立ち会話をし、思いを知るようにしている。利用者の思い等の情報は記録に残し、スタッフ全員で理解するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族と一緒に過ごせる機会を作るようにしており、一緒に過ごす時間を楽しみしてもらえるようにしている。家族交流会の場では、家族同士も喜びや悩みを共有することができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する際は、馴染みの場所に出掛けられるようにしている。家族以外の訪問者も、ご家族の承諾を得た上で、受け入れている。	入居者の生活習慣や友人関係、馴染みの場所等に関する情報を家族や子供たちから得ており入居後もその関係が継続できるように様子を見ながら支援している。デイサービスセンターがドアをはさんで併設されているので知り合い同士が会って話すこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理や、共有スペースのお掃除、洗濯物干したたみ物、食器拭き、かたづけ等の活動時には、仲の良い利用者様同士と一緒にできる配慮をしたり、その方の得意な分野をお願いするようにしている。		

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退居された方については病院へ伺ったり、他の施設への入居をされた方については、その施設へ様子を伺いに行くようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。	職員は日常的に入居者一人ひとりの思いや希望等の把握に努めている。何気ない一言も大切に書きとめサービスに活かしている。意思表示が難しい入居者には仕草や家族等からの情報などを基に話し合いながら本人本位に検討している。プロフィール表に昔の写真を添付するなど入居者の生活暦が家族の手によって詳細に記入されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、利用者様との会話、ご家族との情報交換を大切にすることでケアプランを作成するようにしている。	入居者や家族の要望を基に入居者が自立した日常生活や望む暮らしが出来るように皆で話し合い個別の介護計画が作成されている。実施状況はこまめに毎日記録されている。定期的な見直しや評価も行われている。意向や状態が変わった場合は見直しされ、現状に即したものに作り変えている。暫定ケアプランはケアマネジャーが作成しているが、その後のケアプランの見直しでは、担当スタッフもアセスメント実施に関わるなど連携を図ってプラン作成をしており、プランに沿って支援がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を毎日残すようにしている。また、利用者様の表情の変化や、つぶやき、ひやり・はっとした内容についても記録に残し、サービスの工夫につなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、病院受診や、個別外出について、職員が付き添うようにしている。ご本人の居室にご家族が宿泊することもできるようにしている。		

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向に沿って、ボランティアを導入できるようにしている。また、無断外出による利用者様の捜索や、災害が起きた場合については、警察、消防署と連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が受診している主治医との情報共有を行い意見を聞きながら対応している。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診については家族に協力を頂いているが、定期的受診以外の場合はスタッフも付き添えるようにしている。必要に応じて情報提供書を作成したり、かかりつけ医と電話のやりとりを行なうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	辰野町 訪問看護ステーションと契約を結び、連携を図っている。また、併設事業所の看護スタッフとも連携を図るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホーム内での生活の様子を病院に情報提供している。また、退院時は、各利用者様のかかりつけ医や、協力医療機関である辰野病院からの情報を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を共有することをしている。利用者様の状態が、治療・療法・看護等を常時必要とする状態になることが考えられる場合は、他のサービスを変更される方が多く、相談にのれるようにしている。	入所契約時に「重度化した場合における対応に関する指針」を家族等に十分説明した上で了承を得ている。家族は重度化や医療行為などが必要になった場合は契約解除となることを受け止めている。入居者の心身の状態により早い段階から相談し、本人家族等にとって一番良い方法で支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成して、周知している。連絡方法や職員の動きを明確にしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。	消防計画に沿って、年2回、昼夜の火災や地震等を想定した避難訓練が行われている。入居者は職員の誘導を受けながら避難訓練に参加している。職員は夜間の避難に関するイメージトレーニングをしている。スプリンクラー、自動火災報知器、煙探知機、ガス漏れ遮断機、非常誘導灯等が設置され万全の策が講じられている。非常時の食品なども備蓄されている。	

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	セリフ集を用いて、利用者様へのアプローチに成功した事例、失敗した事例を分析し、利用者様を尊重した言葉かけが行えるように定期的に振り返ることをしている。	個人情報に関する守秘義務については周知・徹底が図られている。入浴時や排泄介助時などに一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応が行われている。接遇についても定期的に振り返り、適切な態度、言葉遣いなどの徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選択してもらうことを心掛けて言葉掛けをしている。利用者様の日々のつぶやきに耳を傾け、つぶやきに記録をし、希望に合わせた支援に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お掃除、洗濯、食事作り、お買い物等行う前に必ず、お声を掛け確認後行って頂いている。体調や気分に合わせて参加ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を確認して、理美容の予約をしている。衣類購入は、好みを良く知っているご家族にお願いしている。着替えの際には、着たい洋服を選んで頂きサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に頂いて頂き、食材を選んで頂いている。プロフィール表や、日頃の会話から、各利用者様の好みを把握している。準備、片付けの役割も定着して、ご自分から行って下さる方もいらっしゃる。	入居者が調理しやすいようにキッチンの中央に調理台がある。食事の下準備や片付けを入居者の力量や希望に応じて職員と一緒にしている。入居者、職員がテーブルを囲み和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、入居者の好きな食べ物を献立に組み入れたり、外食や外出など行事の中で食事を楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医とも、情報共有し、食事量や栄養バランスに注意が必要な利用者様について把握し指導を頂いている。プロフィール表やご家族とのカンファレンス時に情報を頂き、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促している。定期的に口腔の清潔保持に関するアセスメント、評価を行い、その内容に基づいて、サポートを行うようにしている。また、協力歯科医院に訪問してもらい、口腔ケアに関する指導を受けている。		

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサポートが必要な方については、排泄に関するアセスメント表や、排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握しその方に合わせたトイレの声かけ、誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握と入居者一人ひとりの仕草を職員は把握しており、誘導や声かけをしながらトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツから布パンツへと、着用についても改善がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、牛乳をお勧めしている。食事の際に、ヨーグルト、ヤクルト、果物の提供を心がけている。また、ラジオ体操、散歩、体を使ったゲームを行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の様子、希望を確認し、入浴前に、体温、血圧等測定し、安全に入浴が行えるようにしている。また、安全な範囲で好みの湯温で入浴できるようにしている。	入浴日や入浴時間は入居者のその日の体調や希望に応じて柔軟な対応をしている。入浴剤入りのお風呂で入居者一人ひとりが気持ち良くユックリと入浴できている。嫌がる入居者もいるがその人にあった言葉かけで声を掛けると『そうかい』と納得しスムーズな入浴に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にお声を掛け、居室やソファにて休んで頂けるようサポートをしている。夜間については、定時の巡視を行い不眠の方については、定期的にあセスメントを行い、サポートをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時にお薬の処方箋を出して頂き、ホームへも情報提供してもらえるようにしている。処方箋をファイルに保管することで、職員間で情報共有し適切な内容で服薬が行えるようにサポートしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のプロフィール表を利用し、個々の生活歴を把握することをしている。利用者様が希望する役割や、楽しみごとはケアプランにも反映し、張りのある生活につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。毎月のレク担当者による計画を立て、外出、外食、季節毎の行事を行っている。	天気の良い日には敷地内や周辺の散歩、日光浴などを行っている。歩行が難しい入居者も職員の介護を受けながら外出や散歩を楽しんでいる。家族交流会には大勢の家族の参加があり楽しい日帰り旅行となっている。また買い物やドライブでの名所めぐりなども行われており戸外に出かける機会を積極的に設けている。	

グループホーム グレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等のやり取りをしている利用者様はいらっしゃるが、ご家族への電話を希望された時には、電話で話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を飾ったり、お気に入りの写真や小物を置く工夫をしている。また、台所や浴室についても、各物品を使いやすいように、整えている。テレビや音楽の音量、光、照明についても利用者様に確認し調整している。	玄関やホールには季節に応じた飾り付けが行われている。居間と食堂はワンルームとなっており天井が高く、広々として明るい。入居者の生活リズムに合わせた照明や室温調節が行われており入居者は日中の多くの時間をここで過ごしている。壁には入居者のスナップ写真が大きく伸ばされてあちこちに張られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には使い慣れた家具を置いて頂くようにしている。また、共有スペースにも、テーブル、椅子、ソファやコタツを置いてお好きな場所で、自由に過ごすことができる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や、カンファレンス時に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品をご準備して頂くことをお願いしており、各利用者様の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	入居者が自宅で使用していた家具や愛用品が持ち込まれている。馴染みの品々に囲まれながら本人が安心して居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		